

らしく

自分らしく、
粹なくらし

特集

花と緑のまちづくり

街中を花と緑の空間に変えていく♡ソーシャルガーデナー倶楽部（NPO法人セトラひろしま）

花いっぱい緑いっぱいの活動で地域のコミュニケーション活性化につなげる♡はなみどり（佐伯区まちづくり百人委員会花部会）
園芸を通じて、地域福祉と共存する♡NPO法人緑の風景

第12回Hm助成団体決定／支援団体の紹介／人材バンク名人達人 宝人／ようこそ！公民館へ・東区内公民館
らしくレポート・安佐北の豊かな自然を体感！可部連山トレイルラン／らしくコラム・「都市のインテリア」／情報の森／プラザ通信



花と緑のまちづくり

広島市は官民一体となり花と緑のまちづくりに取り組んでいます。自分たちが住んでいる地域で活動している団体や、専門知識を活かして活躍している団体を紹介します。



▲ まちづくり市民交流プラザ前での児童との花の植え込み作業の様子

街中を花と緑の空間に変えていく

ソーシャルガーデナー倶楽部 (NPO法人セトラひろしま)

<http://www.cetra.jp/npo/index.htm>

花と緑あふれる美しい
まちづくりを目指して

「ソーシャルガーデナー倶楽部」は商店街と市民が連携してまちのにぎわいづくりなどを行うことを目的として設立された「NPO法人セトラひろしま」のグリーンプロジェクトとして平成16年に発足。セトラひろしまの設立当初にはごく限られた少数の有志で広島市中区のアリスガーデン（広島市新天地公共広場）や金座街周辺の公共花壇の植え込みなどを行っていました。活動していく中で、まちの緑を手入れしていきたい、もっとにぎわいと憩いのまちづくりをしたいという思いが強くなったため、このプロジェクトを立ち上げて本格的に花と緑を通して活動していくことになりました。

「公共空間での花や緑を育てることは、地域のコミュニティ、商店街の活性化など広い意味で大切な環境美化活動の一つです。そこで私たちは、公共の場や地域にある花壇、公園などの花、緑を手入れ、育成していく人を、社会の耕し人

「ソーシャルガーデナー」と呼んでいます。活動するには、季節にあった適正な花を選んだり、緑を管理するなど幅広い知識が必要になってきます。そこで参加していただく人たちは、それぞれが持つ花の知識や自然環境づくりの思いなどを常日頃から情報交換してもらい、ともに学び合っています」と、代表の本山剛さんは語ります。



▲ メンバーの皆さんと花壇の植替に飛び入り参加したオーストラリアからの観光客

無理のない活動から生まれる
コミュニティづくり

平成16年の発足後、園芸の専門学校に通っている人の協力もあり、少しずつメンバーも増えて、現在では約20人が活動に参加。広島市まちづくり市民交流プラザ前や袋町公園、平和大通り「瞑想の像」サークル花壇、そして季節の植替えとして人通りの多い広島市中区並木通りで活動を継続。月一回の活動日には、中区の住民以外にも、東区、安佐南区、安佐北区、呉市などからも参加する方がいるそうです。定期活動以外にも、天候に応じてメンバーが随時手入れを行っています。

「活動の中でも、頻繁に水を与えないといけない夏場が一番大変で、ほぼ二日に一度の割合で手入れを行っています。ただし、それが義務になって負担にならないよう、メンバーには無理のない形で加わっていただいています」。



▲ 平和大通り「瞑想の像」サークル花壇の植替の様子

また「ソーシャルガーデナー倶楽部」では、広島市立袋町小学校の児童と一緒に、袋町小学校前のコンテナの花植えも定期的に実施。世代を越えた交流を図っていくことで、次世代の人たちとも、花や緑を育成していく中で生まれるコミュニティづくりに取り組んでいます。

「まずは手入れしている花の周りに多くの人が集まり、喜んでもらえることが一番大切です。私たちが笑顔で花や緑を育てていれば、近隣の人々も花壇を気にかけ



▲ 植替終了後の平和大通り「瞑想の像」サークル花壇

てくれたり、世話してくれたり、時間が経つにつれて少しずつ協力をしてくれるようになっていきます。花づくりなどの植物との関

わりから、まちの緑化環境を整えることも大切ですが、それを通して人づくり、まちづくり、そしてコミュニティづくりに繋がっていくべ」と、本山さんは語ります。



Vol.39 薫風号 2014.7

らしく contents

ページ	特集
1	花と緑のまちづくり ソーシャルガーデナー倶楽部 (NPO法人セトラひろしま) はなみどり (佐伯区まちづくり百人委員会 花部会) NPO法人 緑の風景
5	第12回Hm助成団体決定! 支援団体の紹介 荒れた棚田で楽しむ会 ひろしま輪輪プロジェクト
7	人材バンク 名人 達人 宝人 新酒 治代さん 保光 義文さん
9	ようこそ!公民館へ 東区内公民館
10	らしくレポート 安佐北の豊かな自然を体感! 可部連山トレイルラン
	らしくコラム 「都市のインテリア」胸にぐっとくる ヒューマンスケールの空間から考えるまちづくり ~緑や花がつかねるコミュニティ~ 広島工業大学 環境学部 環境デザイン学科 平田 圭子 准教授
11	情報の森
15	プラザ通信



表紙写真／まちづくり市民交流プラザ前での児童との花の植え込み作業の様子

園芸を通じて、地域福祉と共存する

NPO法人 緑の風景

<http://www.fureai-ch.ne.jp/~midori06/>



▲ 広島県呉市郷原のガーデン

**園芸活動をキーワードに
人と人とのコミュニケーションを**

平成18年4月に、植物と共存しながら、仲間を作り元気に心豊かに暮らしていこうと設立されたのが「NPO法人 緑の風景」です。高齢者施設や学校機関、公共の場で園芸福祉の考え方を実践して広める活動をしています。

「もともと、私は子育てがひと段落した後、造園会社でデザイナーとして働いていました。その中で園芸が教育の場や地域交流など、さまざまなところで取り入れられていることを感じ、園芸療法やハーブアロマ等を勉強して、平成14年4月に「ハーブ&アロマの会 緑の風景」として組織化。4年後の平成18年に「NPO法人 緑の風景」を立ち上げました。活動を進めていく中で、近隣の園芸活動

**参加者の笑顔と大きな声
花づくりがもたらす効果**

現在、40人ほどで構成されている「NPO法人 緑の風景」は、広島県呉市郷原のガーデンでの園芸活動と植物活用講座を実施。広島市内の小学校や児童館などで、ハーブガーデンを作つてその整備を行うとともに、クラブ活動やPTA活動への参加を通して子どもたちとのふれあい、高齢者施設での園芸福祉活動などを行っています。



▲ 高松雅子さん

へ参加することによって、単にレクリエーションや健康管理に留まらず、地域の人々や子どもたちとのコミュニケーションのための重要な機会となってきたのを実感。そこで、孤立しがちな高齢者も住民グループの一員として、園芸を通じて環境美化やコミュニティづくりに参加し、役割を持つことができれば、孤独感などから解放されて、新たな生きがいとなり、地域活動に結びついていくのでは、と考えるようになりました」と理事長を務める高松雅子さんは語ります。



▲ 高齢者施設での活動の様子

「NPO法人 緑の風景」を正式に立ち上げる前から、高齢者施設で園芸療法を行っていました。活動後は、さらに本格的に取り組み始めました。平成20年には、広島市内の企業が運営する介護付有料老人ホームの屋上ガーデンに植栽。そこで育った植物を使った園芸の会で、園芸福祉士の資格を取った仲間がプログラムを作成して、計画的に運営しています。施設に入室されている方々に楽しく、自由に園芸活動に参加していただくことで、時間の経過とともに入居者の表情にもそれまでなかった笑顔が見られるようになるなどの変化が現れ、身体面からも、メンタル面からもいろいろなふれあいが増えてきて、コミュニケーションが広がっています。同時に、庭園も「楽しめる庭」へと変化を遂げていきます」。



▲ 作成したハーブをハーブティーに

活動を始めて9年目になる今年、高松さんは、今後の活動について「活動の現場は、さまざまで内容も多岐に渡ります。しかしそこに必ずあるのは、参加者の笑顔と元気な声です。そのためには、地域でのコミュニケーション構築を目指すボランティアをはじめ、ハーブインストラクターのような人材の育成など色々な準備が必要です。もちろん、植物の効能や楽しみ方をさらに勉強していくと同時に作業プログラムの策定もしなければならぬので、そのためにも、地道にガーデン作業や講習会などで植物との共生、自然の大切さ、人と人との絆づくりを伝えて、育てていきたいと考えています」と語ってくれました。

会員がそれぞれの力を結集し、活発に活動することによって、園芸を身近に感じてもらう、さまざまな世代の生活を豊かにすることができると感じました。

花いっぱい緑いっぱいの活動で 地域のコミュニケーション活性化につなげる

はなみどり (佐伯区まちづくり百人委員会 花部会)



▲ コイン通り植栽の様子

**地域の特性を生かした
まちづくりからのスタート**

平成24年5月から、区民が誇りに思える、潤いのある元気なまちをつくるため、佐伯区を花いっぱい緑いっぱいにする活動をしているのが「はなみどり」(佐伯区まちづくり百人委員会 花部会)です。

結成するきっかけとなったのは、平成23年に松井市長が新しく就任し、「花・ゴミ・自転車」をテーマにまちをきれいにする取り組みを始め、当時の佐伯区長がこれを推進するため、五日市在住で園芸研究家の石田邦夫さんに、花づくり等でまちづくりを出来ないかと相談したことです。平成24年4月に住民とともに、地域の特性を生かした個性豊かで魅力と活力のあるまちづくりを進めることを目的に「佐伯区まちづくり百人委員会」を設置することを決定。花いっぱいのまちづくりを進めていく花部会



▲ 石田邦夫さん

**花づくりから生まれる
地域のひとと人との交流**

石田さんを含む21人で結成した「はなみどり」は、まずは、JR五日市駅北口とコイン通りに、ウイスキー樽各10鉢を置きました。その鉢で北口は「変わらぬ魅力」と言う花言葉を持つ金木犀を、コイン通りは「魅力」と言う花言葉を持つクロガネモチを植栽しました。

「花づくりを行っているうちに、地域の人たちの私たちを見る目が変わってきました。手入れ作業を行っている私たちの横を、初めは無言で通り過ぎていた人たちも、時間が経つにつれてあいさつを交わすようになり、地域の中にコミュニ

他、4つの部会を進めています。

「佐伯区には、広島市で唯一の植物公園があります。そこで植物公園と連携、佐伯区全体を植物公園のようにすることを目指し、まちづくり、人づくり、地域づくりを目的に活動しています」と代表の石田さんは語ります。

**花づくりを通して、
まちづくりの花を咲かせる**

現在、「はなみどり」の活動は、定例の会議を月1回開催。春、夏、夏、秋の年2回に分けてメンバーが交代で、JR五日市駅北口とコイン通りの2カ所に季節の花の植栽を行っています。

メンバーは、作業への参加が義務になると負担になってストレスがたまることを考慮して、強制ではなく、それぞれが可能な日の、可能な時間帯のみ植栽を手伝っています。

「今後の大きな目標は、佐伯区全体を植物公園のようにすることです。昨年12月に続き、今年5月にもガーデンが盛んな兵庫県三田市を見学に行きました。その地区は、各家庭が積極的にガーデンに取組んでいるうちに周りの家庭も影響されて、まるで競い合うかのようにガーデンが広がっていったそうです。そして口コミで噂が広がり、見学する人がたくさん



▲ 植栽された花

来るようになったそうです。メンバーはその良さを体験し、刺激を受け、さらにやる気が出てきました。佐伯区内の各家庭も同様にガーデンに取り組んで、まち全体が花と緑に包まれていけば、自分たちの活動がもっと素晴らしきまちづくりに繋がっていくことを実感しました。幸いにも佐伯区内には学区ごとに公民館があり、私たち「はなみどり」以外にも花づくりに取り組んでいる複数の団体が誕生してきました。そして今では花部会が中心となり、他の団体の活動をサポートして交流しています。今後、もっといろいろな交流を深めていくことで、佐伯区全体で花いっぱい緑いっぱいの活動が盛んになり、より魅力あるまちづくりに繋がるのではと考えています」と、石田さんは今後について語ってくれました。

心安らぐ花づくりを広げていくことが、まちづくりの活性化の一端を担うのではと感じました。